

研究実践ワークショップ セッション詳細

会 員(1,000 円) : 4/2 (月) 10:00~9/7 (金) 17:00 **先行予約受付!**

非会員(2,000 円) : 4/16 (月) 10:00~9/7 (金) 17:00

◆ 研究実践 WS1 9/29(土)10:00-11:30・定員 50 名

文献検索の第一歩 ～検索ワードの探し方・決め方～

企画責任者: 佐田 憲映 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学

対象者: 初学者

ワークショップの学習達成目標: クリニカルクエスションに対する系統的な文献検索のためのワードを設定できる

ワークショップの概要: 事前学習で、「系統的検索とは何か」、「統制語とは何か」、「Automatic Term Mapping とは何か」について学習します。また、事前にシナリオを配布します (RQ+代表的な論文)。当日のワークショップでは、事前学習の内容を簡単に復習し、その後グループワークで RQ から実際に検索語を決定し、検索を行います。最後に目的とする検索が行われていることを確認します。

持参物: 無線 LAN が使用できるパソコンを各自ご持参下さい。Wi-Fi 環境も必要で、会場に Wi-Fi を用意しておりますが利用者が一気にアクセスした際にダウンする恐れもあるため、個人のモバイル Wi-Fi をお持ちの方は持参頂けますと幸いです。

◆ 研究実践 WS2 9/29(土)13:10-14:40・定員 50 名

最短で統計解析を行うために必要なエクセル技術～Data Wrangling の第一歩～

企画責任者: 徳増 裕宣 公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 臨床研究支援センター

対象者: 初学者

ワークショップの学習達成目標: 元のデータから、統計解析を行うためのデータセットを作成し、効率よく解析作業が行える下準備を行えるようになる。

ワークショップの概要: ICT の普及に伴い、医療分野でもビッグデータの活用が始まっている。今後はデータの標準化やデータ同士の連携により、様々な医療サービスの見えるかが進むと考えられる。まずは、現在の医療データベースの特徴に関する講義を 15 分ほど行い、これから世の中が向かっていく道を紹介する。

また、臨床研究を行う際に最も時間を要するのは、データの抽出とそのクリーニング作業であり、本ワークショップでは、データベース構築に必要な正規化といった基本的知識の講義も行い、データの問題を理解し、理想形を描くことができることを目標とする。さらに、実際にエクセルを用いて発見した問題点を修正する技術も習得してもらう。具体的には sum や average といった初歩的な関数から vlookup や if 関数など、知っておくと便利な関数まで網羅する。このような作業を行い、知識を身に着けることでデータを取得する時点でいかに最終形を意識した形で格納できるかという意識もはぐくまれ、医療のデータの質向上に向けた、大きな役割を担う人材を育成できると考える。

※参加者が事前に行う作業は想定していない。当日、データベースを扱うために必要なエクセルの知識に関するハンズオンセミナーを行うことを想定している。

持参物: パソコンを各自ご持参下さい。

◆ 研究実践 WS3 9/29(土)14:50-16:20・定員 50 名

予測モデル研究の読み方～deep learning (AI)とは何か？～

企画責任者:片岡 裕貴 兵庫県立尼崎総合医療センター

対象者: 中級者対象、職種は問わない

ワークショップの学習達成目標: 1. 予測指標の枠組みについて説明できる。2. TRIPOD 声明とは何か説明できる。3. 古典的な予測指標研究と deep learning を用いた研究の違いについて説明できる。

ワークショップの概要: 事前課題として、30 分程度の予測指標に関する動画での学習、および課題論文 (JAMA. 2017 Dec 12;318(22):2199-2210.) を読むことを要する。当日は、課題論文の内容をグループワークで評価する。

deep learning の実装について学びたい参加者には事後配布資料で対応する。

◆ 研究実践 WS4 9/29(土)14:50-16:20・定員 48 名

費用対効果の使い方

企画責任者:後藤 励 慶應義塾大学経営管理研究科

対象者: 医療技術や医薬品・機器の費用対効果を評価するうえで注意すべき事、今後研究が必要な分野について理解する。

ワークショップの学習達成目標: 費用対効果を政策や実診療に活かすために注意すべき事、今後研究が必要な分野について理解する。

ワークショップの概要: 2017 年度から医薬品及び医療機器の費用対効果評価が試行的に始まっており、実際にその結果に基づいて価格調整が行われた。医療技術評価(health technology assessment: HTA)のプロセスは分析・評価・意思決定の3段階に分かれている。日本でも、分析段階については研究方法についてガイドライン作成が行われており、標準化が進んでいる。一方、費用対効果研究結果を使って政策的な意思決定を行う段階については、昨年度の試行的導入において様々な問題点が指摘された。

本ワークショップでは、ビジネススクールで用いられるケースメソッドを用いて、費用効果分析の結果を解釈し、費用効果以外の医療技術の要素を考慮し意思決定するまでの過程をディスカッション形式で学ぶ。

参加者は事前にケース教材と事前設問が配布されるので予習が必須となる。

◆ 研究実践 WS5 9/29(土)16:30-18:00・定員 50 名

QOL をアウトカムとした研究を読み解く

企画責任者:山本 洋介 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学

対象者: 初級～中級向け。QOL 評価を用いる全ての職域・専門領域が対象

ワークショップの学習達成目標: 1. 先行研究を通じて、QOL をアウトカムとした臨床研究の型を知る。2. QOL 尺度を活用する上での適切な評価方法が設定できる。

ワークショップの概要:

【概要】本ワークショップでは、QOL をアウトカムに設定した先行研究を批判的に読み、その研究の型と適切な評価方法について、グループワークとミニレクチャーで学びます。

【対象】QOL に関心のある全ての職種の方 (医療職・企業・行政の方を含む)

【ミニレクチャー】グループワークに先立ち、QOL 尺度に関するミニレクチャーを行います。講義では、先行研究を通じて QOL 尺度を用いたアウトカム設定の型・方法についても概説します。

【ワークショップの内容】5～6 人程度のグループに基づきグループワークを行います。具体的には、指定された先行研究について討議を行い、その QOL のアウトカムとしての設定方法について改善すべきポイントを議論します。その際には、1. QOL 尺度の選択は適切か、2. 測定タイミングの設定は適切か、3. 結果の解釈は適切か、などの点から、単に「QOL 尺度を使用する」だけでなくどのように使用すると効果的なものになるかについて議論を深めます。最終的に

は、グループごとに改善後の QOL を用いたアウトカム設定について、思考の過程とともに発表していただきます。発表後には討議並びに講評の時間を設け、総括を行います。

【コンピュータ使用の有無】 使用しない・ハンズオンは設けない

◆ 研究実践 WS6 9/30(日)10:20-11:50・定員 50 名

これでもう査読依頼もこわくない！チェックリストを用いた系統的査読のすすめ～観察研究編～

企画責任者：大前 憲史 福島県立医科大学 臨床研究教育推進部

対象者：初学者から中級者、職種は不問

ワークショップの学習達成目標：1. 現行の査読システムの枠組みとその問題点を説明できる。2. 観察研究の論文を査読する際に、評価すべきポイントを3つ以上挙げられる。

ワークショップの概要：当日グループワークで査読作業をするための課題論文1本を読む。

<事前>

当日グループワークで査読作業をするための課題論文1本を読む。

<ワークショップ当日>

- ・ 現行の査読システムに関して、枠組みと問題点、最近のトピックについて解説。
- ・ レポートの質、Risk of Bias、結果の解釈に関するチェックリストについて解説。
- ・ チェックリストを用いた査読作業をグループで行う。
- ・ グループワークの成果をグループごとに発表する。

◆ 研究実践 WS7 9/30(日)13:10-14:40・定員 50 名

論文の批判的吟味～研究計画と情報収集～

企画責任者：竹内 正人 京都大学大学院医学研究科薬剤疫学分野

対象者：初学者から中級者（専門領域、職種を問わない）

ワークショップの学習達成目標：医学論文の批判的吟味とは何か、そしてどのように行うかの体系を講義とグループワークを通して習得する。

ワークショップの概要：研究計画を立てる上で、これまで何が分かっている、何が分かっているのか先行研究から情報収集を行う際、得られた論文の批判的吟味を行い、論文の内容が適切かを判断することが極めて重要である。しかし医療者が、読むべき論文の選び方、読み方について系統的に学ぶ機会が少ないのが現状と思われる。

本ワークショップでは、医学論文の批判的吟味に関する講義とグループワークを行う。

グループワークでは、論文に書かれている対象や方法が妥当か、結果が信頼できるかについて、事前に論文を読むためのチェックポイントを提示した上で、論文をじっくり読みながら作業を進める。最後に、講師がポイントに沿って論文を解説する。論文を読み始めたばかりの方、読み方に自信のない方、今までに論文の批判的吟味に関する講義を受けたことのない方の参加を想定している。グループワークでは実際の医学論文を用いるが、題材については特定診療科の専門知識がなくても読めるよう、テーマに配慮する。参加者が本ワークショップを通して、論文を批判的に読むとはどのようなことなのかを実感でき、その体型を習得できることを目標とする。今後文献を読みそこから得られた知識を医療現場において役立てられる、その足がかりとなれば幸いである。

準備として事前に論文を配布し、予習範囲を指示する。また、コンピュータは使用しない。